

令和元年度福祉文教常任委員会管外行政視察報告書

- 1 視察日時 令和元年10月29日（火）～10月31日（木）
- 【1日目】神奈川県川崎市
10月29日（火）午後1時30分～午後3時まで
- 【2日目】東京都千代田区
10月30日（水）午前10時～午前11時30分まで
- 【3日目】神奈川県相模原市
10月31日（木）午前10時～午前11時40分まで

- 2 視 察 先 神奈川県川崎市 南部地域療育センター
東京都千代田区 「アーツ千代田3331」
神奈川県相模原市 教育委員会教育センター

3 視察事項

- (1) 早期療育指導訓練について【川崎市】
- (2) 廃校跡地利用について【千代田区】
- (3) プログラミング教育について【相模原市】

4 視察目的

川崎市

市内に4カ所ある地域療育支援センターでは、概ね3歳未満の障害のある、またはその疑いのある子どもの成長や発達相談を受け、情報の提供や診療、子どもに合わせた療育支援が行われている。センターの支援体制や施設概要、利用者の現状について視察し、本市での取り組みの参考とする。

千代田区

「アーツ千代田3331」は、千代田区文化芸術プランの重点プロジェクトにより、平成17年統合で閉校した中学校の校舎を改修して、文化芸術施設として整備された。閉校となった施設の跡地利用について、その経緯や施設概要、地域での位置づけ、利用状況などについて視察し、本市の学校統廃合後の施設利用の参考とする。

相模原市

情報技術が進展する社会における子供たちの情報活用能力を育むため、プログラミング学習が、新学習指導要領で小学校から必修化される。相模原市教育センターでは、学校の情報化推進計画を策定し、「情報活用能力の育成」、「ICTを活用した授業改善」、「公務の情報化」の3つの施策を中心に学校の情報化を推進することにより、安全安心な学校づくりと情報教育の充実をめざしている。教員の授業力向上を目指した研修の充実と小・中学校での授業の実践について、本市での取り組みの参考とする。

5 参加者 《福祉文教常任委員会》(5名)

委員長 野 本 利 明
副委員長 肥 塚 康 子
委員 宗 實 雅 典
委員 内 匠 勇 人
委員 横 田 勉

《随伴》議会事務局副主幹 竹 北 嘉 子

6 視察先出席者

【川崎市】 南部地域療育センター 副 所 長 長谷川 裕之
地域支援係長 小林 雅之

【千代田区】 地域振興部文化振興課 文化振興係長 高橋 温子
文化振興係 尾鍋 直輝
アーツプロジェクト事業部 広報セクションチーフ 稲葉 智子

【相模原市】 議会 議会 局 局 長 長田 尚
政策調査課 担当課長 宮崎 信広
教育委員会教育局学校教育部教育センター
学習指導班担当課長 後藤 幹夫
指導主事 渡邊 茂一

7 行政視察内容

【神奈川県川崎市】川崎市南部地域療育センター

早期療育指導訓練について

(1) 南部療育センターの事業内容

対象：0歳～18歳の全ての障害者・児（多くは就学前まで）

①地域支援 発達の相談、就園・就学、福祉サービス等の相談、地域の中で孤立しないよう関係機関と連携

・新規相談の主訴：言葉の遅れ、集団適応、落ち着きがないなど
育児不安、子育ての悩み

②通 園 児童発達支援事業：児童発達支援、
医療型児童発達支援（肢体不自由）
短時間児童発達支援（放課後デイサービス）

療 育 支 援：障害に起因する生活の困難さに対する支援

人とのコミュニケーションを楽しむ心を育て、自信を持たせる。持っている力を生かし、発達を促す。

保護者支援：保護者が子供に適切に接するための支援。子どもの特性を理解し、関わり方を学ぶ。

③外来診療 小児科、児童精神科、小児神経科、リハビリテーション科、耳鼻咽

喉科、摂食外来、歯科検診・眼科健診
個別訓練（OT／PT／ST）
専門スタッフによる個別評価、訓練及び相談
心理相談、療育講座、外来グループでの療育

（2）療育センターの課題

- ①新規相談件数が増大しており、ケースワーカー業務が増大している。予約まで4か月、予約をしてから初回面接まで2週間～1か月要する。その後、児童精神科、心理検査などへつなげるが、さらに待機期間が1年ほどと長くなる。
- ②学齢期の相談も増加しており、学齢期支援の必要性がでてきている。
- ③グレーゾーンの発達障害が見落とされがちである。
- ④親が発達障害や精神障害をもっている場合が多く、適切な対応ができない場合がある。
- ⑤外国語を母国語とする相談が増加している。

【東京都千代田区】アーツ千代田3331

廃校跡地利用について

（1）「アーツ千代田3331」開設までの経緯

- | | | |
|-------|-----|---|
| 平成16年 | 3月 | 千代田区文化芸術基本条例の制定 |
| 平成17年 | 1月 | 千代田区文化芸術プラン策定
「(仮称)ちよだアートスクエア」が重点プログラムに位置付け。 |
| | 3月 | 練成中学校閉校 |
| | 9月 | 「(仮称)ちよだアートスクエア検討会」で検討。 |
| 平成18年 | 10月 | 「ちよだアートスクエア構想の提言」が提出され、拠点施設の設置場所として3カ所の廃校を比較検討し、その結果旧練成中学校の活用が望ましい旨の提案があった。 |
| 平成19年 | 12月 | 答申「(仮称)ちよだアートスクエアの設置について」の提出。設置場所について、提言どおり旧練成中学校が適切であるとされる。 |
| 平成20年 | 7月 | 「(仮称)ちよだアートスクエア実施計画書」、
「(仮称)ちよだアートスクエア運営団体募集要領」が作成され、運営団体を公募。 |
| 平成21年 | 5月 | 「合同会社コマンドA」を運営団体として決定 |
| 平成21年 | 10月 | 区とコマンドAとの間で賃貸借契約締結 |
| 平成22年 | 6月 | 「アーツ千代田3331」グランドオープン |
| 平成26年 | 1月 | アートスクエア第2期運営団体を募集 |
| 平成27年 | 1月 | コマンドAに決定しさらに5年間の賃貸借契約を締結
(東京オリンピックの年なので、さらに2年延長) |

「ちよだアートスクエア」は文化芸術プランの主な取り組みのひとつであり、ソフトとハードの両面を指す。「アーツ千代田3331」は運営団体が決定した施設の名称である。

(2) 施設概要

① 施設名称及び所在地

アーツ千代田 3331

千代田区外神田6丁目11-14 (旧練成中学校)

② 施設運営団体

合同会社コマンドA

(3) (仮称) ちよだアートスクエア実施計画書概要 (H20)

① 位置づけ

平成17年1月に策定した「千代田区文化芸術プラン」の重点プロジェクト。

新たな文化芸術の拠点を整備し、区民等の自主的で独創的な文化芸術活動を支援・推進する。

② 目的

千代田区は文化的・歴史的に貴重な財産を多く持つことから、それらに関する情報を発信するとともに有効活用し、これにより人々のさまざまな自己表現の場や交流の期間を提供する。その結果人びとの生活の質を高める役割を果たすことがちよだアートスクエアの目的である。

③ 対象者

千代田区に在住・在勤・在学する人々及び観光客など、千代田区にかかわるすべての人々とする。

④ 基本方針

* 運営への参画、利用の両面で区民等へ開放的な施設とする。

* 伝統文化等現代芸術文化の出会いの場所とし、地域での新たな活動を誘発する拠点とする。

* 人々の興味を惹き、話題性を創出できるような明確な特徴を施設及び事業に持たせる。

* 区民等が参加できるイベント等を常に発信する。

* 千代田区・地域との関連性を活かす。

⑤ 運営方法

運営団体が

* 千代田区と普通財産賃貸借契約を結び、提案した運営事業を実施する。

* 施設改修に伴う設計及び改修工事を行う。

* 文化芸術にかかわるプログラムを実施する。

* 施設の維持管理を行う。

* 光熱水費の支払いを行う。

* 広報活動を行う。

* 千代田区の財源に頼らない独立採算を前提とした運営を行う。

※区の施設として、2階に町内や同窓会が利用する区民会議室を設けている。また体育館は時間を区分し、区もスポーツ開放として利用している。

(4) 校舎改修に際し配慮した点

人々が使いやすく、かつ人々を惹き付ける魅力的な場とするために、改修に際し配慮した点

- *旧練成中学校の建物は、街に対して閉鎖的な造りとなっており、基本方針である「区民に対して開放的な施設」とするために、意匠的にも動線的にも開放的な施設となるよう改修する。
- *旧練成中学校にはエレベータ等の設備がなく、子どもからお年寄りまで多くの人々に気軽に施設を利用してもらうために、地階から屋上まで容易に移動できるようエレベータの設置や多目的トイレの設置など、バリアフリー対策に関する改修を行う。
- *近隣地域に音が漏れないように、一部の教室等について防音対策に関わる改修を行う。
- *インターネット及びセキュリティ設備を充実させる。
- *施設インフラである電気、空調、ガス、水道などに不具合がある場合には、入居者や利用者が快適に施設を使用できるよう必要な改修を行う。
- *活動スペースの教室改修は、運営団体もしくは各入居者が行う。

【神奈川県相模原市】相模原市教育センター

プログラミング教育について

(1) プログラミング教育の取り組みの経緯

①平成 28 年度 プログラミング教育を施策に取り入れた

平成 29 年度～31 年度の相模原市小・中学校の情報化推進計画に施策として位置付け。これを受けて各校も学校教育計画に推進計画を作成。

施策 1：情報活用能力の育成

施策 2：ICT を活用した授業改善

施策 3：公務の情報化

②平成 29 年度 全校でプログラミング教育を実施した

行政、学校、実績のあるメーカーが協力し、その他さまざまな機関と連携

課題 教員のプログラミング教育に対する心理的なハードル

1) 具体的な指針の提示

教員が自学自習したり授業づくりをしたりするための拠り所

「小学校プログラミング教育の手引き」

- ・プログラミング的思考（コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考）を育む。
- ・プログラムの仕組み等の理解（コンピュータでできること、苦手なことに気づく）と、問題解決へ活用する態度（暗くなると自動で点灯する照明、土が乾いたら自動で水やりなど）を育む。

2) 授業力の向上

- ・研修の実施：プログラミング教育全般についての理解

プログラミング言語、教材を活用するためのスキルの向上
各教科等の時間におけるプログラミングの授業づくり

- ・授業の実践：学年、時期、教科を絞って全校で実施
- ・メンターの育成：プログラミングに興味がある、授業がうまい、各教科のプロフェッショナルなどの教員をメンター候補者として、外部と連携して市内外で活躍できる人材を育成
- ・授業事例の周知：公開授業の実施、報道提供、ICT支援員の活用
→全教員に授業づくりの意図が伝わる

3)環境の整備

- ・教材の導入：企業との協力は大事だが、企業の利益、どの教材が良いのかの判断基準、教育文化と企業の折り合いなど、解決すべき課題は多い。

③平成30年度 先生たちが自主的に授業づくりを始めた

いろいろな教科にプログラミングを取り入れた

- 例) 学 活：ロボットと友達になろう
 国 語：スイミーの続きを表そう
 算 数：正多角形の作図
 理 科：空気のあたたまり方
 社 会：災害に強いまちを作ろう
 生 活：あったらいいな、こんなおもちゃ
 家 庭：明るくあたたかく住まう工夫
 その他：シューティングゲームをつくろう
 自動販売機
 イルミネーション

④令和元年度 市統一カリキュラムを作成したい

プログラミング教育で育成する資質・能力

- ・知識及び技能
- ・思考力、判断力、表現力
- ・主体的に学ぶ力、人間性

発達の段階（学年）に応じて、

- 1) 体験的な学びでプログラミングの資質・能力を育てる場面
- 2) 学習課題を解決するツールとしてプログラミングを活用する場面
を各教科等及びその他の授業の中に盛り込む。

(2) 2020年に向けた学校の準備

- ①教員がまずプログラミングを体験してみる。
- ②体験をもとにプログラミング教育の概念を理解する。
- ③自分の楽しい体験を授業にする。

体験を軸にしたスモールステップを仕掛ける

- ステップ1 全ての教員を対象とした体験形式の研修
- ステップ2 推進教員（チーム）の決定

- ステップ3 プログラミング教育の概念の理解
- ステップ4 推進教員（チーム）の授業実践
- ステップ5 全ての教員がプログラミングの授業実践
- ステップ6 各教科でのプログラミングの授業実践
- ステップ7 カリキュラム・マネジメント

8 視察結果について

今回の行政視察の結果、神奈川県川崎市、東京都千代田区、神奈川県相模原市が取り組み、実行している事項をまとめると下記のとおりであり、今後、当委員会での調査事項を検討する中で、各市の取組事項を分析し、参考にしながら、本市福祉文教常任委員会の調査研究をより一層推進していくものとする。

（1）神奈川県川崎市

《所 感》川崎市では各地域に療育センターがあり、視察先の南部地域療育センターでは、早期療育指導として、主に未就学児の療育訓練と保護者の支援を行っている。不安を抱える保護者の相談や、医療機関や専門のスタッフが入っての訓練などもあり、設備も充実した施設だった。ただ、相談件数の増加が著しく、相談から、実際に支援を受けられるまでの期間が長いという問題点も多い。全国的にも発達障害の子どもが年々増えており、不安を抱える保護者も多い。本市においても、相談窓口の周知や情報提供など、課題に対する取り組みの充実が必要と考える。

（2）東京都千代田区

《所 感》廃校の中学校を整備し作られた文化芸術施設「アーツ千代田3331」は主に美術などの一流のアーティスト、クリエイターだけでなく、子どもから大人まで誰でも利用できるスペースとして活用されている。市街地で交通の便がよいため、屋上での家庭菜園や、体育館での企業の運動会などの利用もあり、本市の実情とかけ離れた点はあるが、本市でも「龍野アートプロジェクト」の開催などもあり、民間団体のアイデアによっては参考となる事例の一つかもしれないと感じた。

（3）神奈川県相模原市

《所 感》来年度から始まる、小学校における「プログラミング教育」については漠然としたイメージしか持っていなかったが、ソフトが導入されたパソコンを使用して分かりやすく説明していただき、実際に操作することによって、いろいろな教科にプログラミング的学び、考え方を取り入れることができると知った。29年度から全校でプログラミング教育を実施している相模原市は先進地であり、多くの学びが得られたが、本市においては実際に指導にあたる教員の研修などの必要性を感じた。